

総括

平成16年11月1日に明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白州町、武川村の7町村が合併し、北杜市が誕生した。更に、平成18年3月15日に小淵沢町の編入合併により、新しい北杜市が誕生した。北杜市は、山梨県の北西部に位置し、県下最大の面積を有する。八ヶ岳連峰や南アルプス等の山々、豊富な湧水といった自然環境にも恵まれていることから、多くの観光地がある。また、その湧水を利用した大企業の工場も多数存在する。こうした中で、市内を流れる多くの河川は清流であるものの、こういった因子の影響を受けるおそれがあり、水質調査を継続的に実施し監視しているところである。

北杜市誕生後から起算すると、今回で第七回目となる河川水質調査となる。特異的な事柄とすれば、まず須玉増富方面から自然由来と思われるひ素の検出が挙げられる。特に須玉No. 2 本谷川とNo. 11 出田川で環境基準を超過する値で検出されている。同じ水系の下流域である須玉No. 10や明野No. 7の塩川でも検出されている。下流に行くに従って濃度が減少しているため、おそらくこれに起因していると思われる。須玉No. 10や明野No. 7の塩川では今年度も環境基準は満たしていた。

次に事業所や生活排水などの影響が出やすいと思われる地点で、人の健康に関する26項目の検査を行ったが、有害物質などはほとんど検出されておらず、良好な結果だった。

生活環境に関わる河川環境基準の項目では、pHとDOは全地点で夏季冬季ともにAA類型となり、SSは夏季冬季の平均値が全地点でAA類型であった。BODも、夏季冬季の平均値がほとんどA～AA類型となり、全体の95%を占めた。その他、B類型が全体の3%（須玉No. 5 甲川、大泉No. 4 泉川 2地点）C類型が全体の2%（小淵沢No. 5 鯛沢川 1地点）となった。今回C～B類型の数値を示した地点は、過去データからも比較的同様の数値で推移しているため、塩川や富士川のデータと併せて確認していく必要があると思われる。

その他の項目について、大門ダム上流域で、全窒素、全りんといった栄養塩が高く検出されていた。例年高めに検出されているため、地質的、若しくは地域特性的な要因と思われる。栄養塩は、生物にとって必要な成分ではあるが、濃度が高いと富栄養となり、生態系の多様性の減少や、湖沼が浅くなるといった状況を引き起こす。また、除去が難しいため、元を絶つことが一番の対策と言われており、例えば、農業などでは適正量の施肥を呼びかけるなど工夫が必要になってくると思われる。

以上、本調査結果から、北杜市は塩川上流域や須玉川上流域のように、特徴のある地域もあるが、上流域ということもあり、非常に良好な水質である河川が多く、今後もこの水質を維持し続けていきたいと考える。また、そのためにも、本報告内容がその一助となれば幸いと考える。